

理数科学科・人文社会科学科「発展探究」課題研究発表会

SS 部研究発表会開催

期 日：平成 31 年 1 月 25 日（金）午後

場 所：本校第一体育館

参加者：本校探究科学科 1, 2 年生生徒、富山大学教官、県内外の教育関係者、
本校教職員、保護者

本年度は本校探究科学科 2 年生 79 名と SS 部員 20 名が、29 の研究発表を行った。研究を進める際に多くの指導や助言をいただいた富山大学の先生方や、SSH 運営指導委員の方々が参観され、発表の評価をして頂いた。また本校の先生を始めとして、県内外の教育関係者や保護者の方々、来年度発展探究に挑む 1 年生探究科学科生徒など、多くの来場者に研究成果を聞いてもらった。毎年この時期に開催する発表会だが、今年は天候にも恵まれ、会場は熱気にあふれていた。

探究科学科 2 年生は、昨年 12 月に行われた県内探究科学科三校合同発表会での反省を踏まえて、参加者から指摘を受けて気づいた問題点を改善し、更に研究を深め、1 年にわたる探究活動の成果を発表した。SS 部からは化学、物理、生物、数学の SS 部が普段の部活動で行った研究を発表した。SS 部の発表には、自然科学部発表会で高い評価をうけた研究や、1 年生だけで参加する発表班もあった。どの研究にもたくさんの聴き手が集まり、活発な質疑応答が行われていた。

閉会式では、理数科学科、人文社会科学科毎に富山大学の工学部教授廣林先生、人文学部准教授結城先生から講評を頂いた。

各発表は 20 分間ずつ 2 回のコアタイムの中で、ポスターセッション形式で行った。聴き手からの新たな視点からの質問や、客観的な鋭い指摘を受けて、自分たちの研究の甘さを感じるとともに、今後の課題を見つけることができた。また、様々な発表を聞くことで多くの知見を身につけたり、斬新な発想に感嘆したりすることもできた。専門的な見地からの鋭い指摘や、「この研究をすることで、君たちにはどんな意義があったのか」という自分たちとは全く別の視点からの質問への応答に苦労したが、研究の新たな問題点に気づくことができたよい機会となった。どの顔にも 1 年にわたる研究をやり遂げたという達成感があった。

